

(報告事項1)

海外出張報告(2018年11月23日～12月3日)

Board Effective Program & 公的年金理事(取締役)向けインタビュー

年金ファンド理事会(取締役会)の果たすべき役割

－ 海外年金ファンドの事例からの示唆 －

2018年12月17日

経営委員兼監査委員
堀江 貞之

出張スケジュール

トロント大学Board Effective Programへの参加と年金理事インタビュー

1. 年金ファンド理事会(取締役会)メンバー等とのインタビュー

●11月23日(金)

- Ms. Heather Munroe-Blum (CPPIB、chairperson of the board of director)
- Ms. Patricia Croft (OTPP、board member、Chair of Benefits Adjudication Committee、member of Audit & Actuarial and Governance Committees)
- Mr. Keith Ambachtsheer (President、KPA Advisors)

●12月3日(月)

- Mr. Sudhir Rajkumar (Representative of the Secretary-General (RSG) for UN Joint Staff Pension Fund Investments)、Mr. Toru Shindo (Deputy Director for Investment)
- Mr. Russell Read (Executive committee member、MSCI)
- Mr. Ben Phillip (Partner、Casey Quirk)

2. トロント大学ICPM(International Center for Pension Management) Board Effective Program(11月26日(月)~30日(金))への参加

エグゼクティブサマリー(1)

Board Effective Programのサマリー

■ 受託者責任の範囲の変化

- 受託者責任は金科玉条の定義が定まっている訳ではなく、社会規範や年金ファンドの目的に応じて変化していくもの→「外部性」、「世代間考慮」、「システミックリスク」の考慮等。

■ 年金ファンド理事会(経営委員会に相当)の構成員

- 代表性を優先するのか専門性を優先するのかで求められるスキルセットは異なり、国毎に差異がある(多くの国は代表性を優先、カナダのような専門性優先の国は少数)。

■ 年金ファンドガバナンスの課題

- 限られた時間配分の中で、Hindsightから、Oversight、Foresightへの時間傾斜が重要
- 意思決定方法は国によって大きく異なり、多様な意見の取り込みが不可欠

■ 責任投資の考え方

- 年金理事会が利害関係者にアクティブ・オーナーシップ戦略を提示し説明することの重要性

■ 年金ファンドのディスクロージャー基準

- 統合報告書のフォーマットを活用したディスクロージャーの検討

■ 投資原則の重要性

- 投資プロセスの明確性の向上、投資戦略の機能不全におけるフィードバック機能の役割等 2

エグゼクティブサマリー(2)

カナダ公的年金ファンド(指名委員会等設置会社と同等)理事インタビューのサマリー

■専門性を重視した年金理事の選任

- ガバナンス及び組織のリーダーシップが基本スキル、投資・会計・情報技術等は二次スキル

■年金理事間、年金理事・経営陣の相互信頼及び健全な相互関係の重要性

- 円滑な年金ファンド運営における最重要事項の一つ
- インフォーマルな会議等の設定、会議前後の理事のみによるブリーフィング、議長とCEOの個別会議等の設定等の工夫の仕組み

■年金理事のコミットメントの度合い

- 上場会社の取締役以上に多くの時間を使う仕事であるという認識
 - 他社の社外取締役を兼務している例は多いが、現業を持つ理事は少数派
- 理事会及び各種委員会は年6回開催、投資委員会は電話会議も含め10回以上開催

■年金理事会による名声リスクの管理

- 優秀な人材獲得には広報活動が重要である一方、名声リスクが高まる点に注意を払う

■利害関係者とのコミュニケーションの重要性

- 政府等の年金プランスポンサー、受益者、マスコミ等にファンド運営の状況を適切に伝達することは、公的年金ファンドの取締役会議長の最重要の役割の一つ